

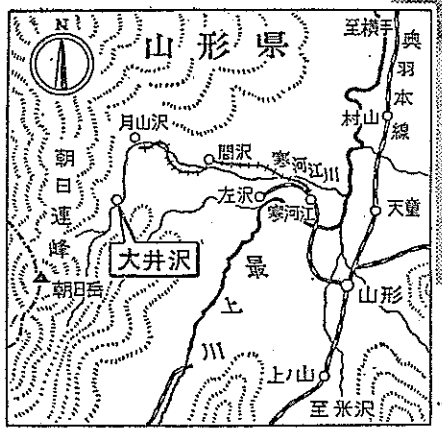
ここに  
こんな人が

# 辺地に捧げた女医の青春

## 村を守って24年の志田周子さん



短夜にカルテの整理なしつつ  
あくせくと生きる我かと思う  
一診療所での志田周子さん



山形県西村山郡西川町大井沢。この部落を訪れて、記者が最初に出くわした相手がタヌキだった。いや、正確にいえばタヌキつれの村人である。なんでもこのタヌキは、当日裏山で生けどつたんだとか。首にナワをかけられ、バス道路をのそのそと引立てられて来た。

なにしろ朝日連峰の山とところにあるここ大井沢部落は、寒河江川の上流にあたり、名だたる辺地である。冬は雪が四層も積り、春先ともなるとつれのクマが山菜めあてに山を下ってくる。タヌキなどは、大して珍しくもないのである。そういえば動物小説の作家戸川幸夫もこの大井沢を舞台に「かもしか学園」を書いている。この大井沢に、独身の女医志田

周子さんが住みついてから、すでに二十四年になる。四十八歳の今日まで、たった一人の医者として彼女はがんばり通して来た。

辺地のことだから、峠をこえて一日がかりの往診というの珍しくない。今でも大井沢から十八はなれた水瀨部落まで医者がいないのである。間近にせまった山を指しながら、「ほら、その峠がーばん高く見えるでしょ。ところが、あそこまでのぼると、その先にもっと高いのが見える。『今度こそ』とがんばってのぼると、そのまた先にさらに高いのがある。ほんとにうんざりしますわ」

と志田さんが笑った。無医村では、夜中でも往診を断るわけにいかない。みすみす患者を見殺しにする結果となるからだ。

「若いころは往診先に泊るのがいやでした。相手の家の人に『たとえ夜中になっても、必ず送り返してね』と条件つきで往診したものですわ」

と志田さんはいった。「でも私も年とつたせいでしょうか。近ごろは無理をいうのが気の毒みたいで、往診先に泊ることもあるんです」

もつとも自転車で往診できる間はよい。処置するのは冬だぞうだ。急病人が出ると、胸までの雪もラッセルして往診しなければならぬ。そういえば、こんなことがあった。

志田さんの診療所から一\*はなれた隣部落の葦野に肋膜炎者がいた。志田さんは吹雪をおかして往診に向つたのである。が、吹雪はつる一方で、とうとう道も何もわからなくなつてしまつた。半日間の悪戦苦闘の末、たつた一\*先の愚案にたどりつけず、空しく引きあげたのだった。

また、こんなこともある。これも

### 「村に医者がほしい」

大井沢は町村合併前は大井沢村といつた。平将門の家来志田弾正といつたのが、ここに落ちのびて住みついたらと伝えられる。そのせい

か現在二百四十戸の部落で半数近くが志田姓である。

女医・志田周子さんも大井沢の出身だ。お父さんの故庄次郎氏は

教育者で、大井沢村長をつとめた人。彼女は、その十人きょうだいの長女に生れた。

この父娘にも無医村の苦惱は骨身に徹していた。なんでも弟の惣次郎さんが四歳でハシカのと重い肺炎をおこしたことがある。はるばる二十八も離れた左沢まで医者の往診をおおきに行つた。文字通り三拜九拝の末、ようやく二回だけ往診してくれた。そして「医者来るぞうな」とウワサをききつけて、村の病人という病人は志田さんの家の門前におしかけたという。いや、それより忘れられないのは二回目の往診をお願いに行つたときだ。医者はずもなげにいって、「なあんだ。あの子はまだ生きてたのか」

は、自分の子供を医者にな立てることだけだつた。

辺地のことである。村で初めて中等学校に進んだのは「男では惣次郎さん、女では周子さん」だつた。彼女は山形高女から、さらに東京女子医専に進んだ。卒業後は医専病院につとめていたが、「お願いだ。卒業したら三年だけ院に帰れるんだ」

### 西洋くせえ医者娘

昭和十年、彼女は大井沢に帰ることになった。吉岡弥生校長にあいさつにいくと、「あなた、産科をよく勉強してないでしょう？ 辺地へ行ったら困りやしませんか」といわれた。が、志田さんは胸の中つぶやいて、

「私は平ちゃらだわ。たつた三年のことじゃないの」

覚悟の上だったが、やはりこたえた。たとえ結婚を見送る。彼女はさつそく山形市の病院で精密検査をうけるように紹介状を書くと、すると村人は、

「なんだ。医者のくせに自分で診断できないのけ。何のための医者だんべ」

とブツクサイつた。医者は聴診器をあて、体をさすってみれば必ず分るときめこんでいるのだ。

胃ケイレンという持病がバカに多かった。決まって春先、秋口におこる。ところがよく調べてみるとほとんど蛔虫が原因と分つた。胆道あたりにもぐりこんで、いたずらするのだ。体は液れるし、消化不良でもおこすと、とたんに悪化する。寄生虫のことを頭におかないと辺地の医者はつとまらぬと知つた。が、当の村人は蛔虫うじやうじやにも気づかず、志田さんを「虫のことしか分らん虫医者だ」などとカゲ口をきいた。いや、今日でさえ三百三十人の学童中、実に二百八十八人が蛔虫をわかつているという村なのに……。



深夜の往診三度続きぬ川千鳥  
寒河江川辺にちちと鳴き過ぐ  
一自転車で往診の帰途一

それよりも「西洋くせえ医者娘」の出現は、村人をおどろかせた。ワンピースで外出すると、「ハダカで歩いてる」といわれた。スキーズボンで雪の中を歩くと、子供たちが追いかけて来て、顔をのぞきこみながらいった。「へえ、女だ。やっぱり女だ」

若い志田さんの胸をゆきぶつたのは村の老人たちだ。彼らはポロポロ涙を流しながら、「これで、安心して死ねる。死ん

おひげそりには・安全で経済的な...

NEW FEATHER-BLADE  
BEST SAFETY RAZOR-BLADE 2

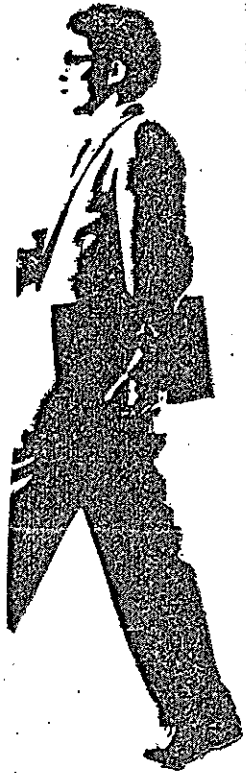
刃の厚さ・両刃 (赤面) 0.13mm  
(青面) 0.10mm (緑面) 0.08mm  
(銀面-スデンレス) 0.12mm  
片刃0.25mm

フェザー剃刀

贈って安心  
受けて安心

文明堂の  
カステラ

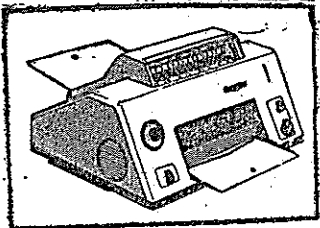
長崎・博多・神戸・大阪・横浜・東京



スーパーマンが新入社!

コピーライター800はオフィスでいちばんの働き手。書類や図面の写しを鮮明に...

コピーライター800 340型 (A-3判) 460 (A-2判)



三田工業株式会社 本社 大阪市東区宮林町5番地 TEL 8451-31170-6913-6

のはたきらんでのうーといった。無医村では死んでも医者の死亡診断書がもらえず、従って葬式も出せない。

町議と短歌と由里ちゃん

村の衛生は、聴診器だけでは向かない。志田さんは戦後、婦人参政権を与えられた第一回の村会議員選挙に立候補し当選した。

「弟が医者になっても、ここに帰らなさい」とはいえませんが、珍らしい患者がいるわけじゃない。一生、田舎医者としてうずもれることを思うとかわいそうだ。

生女の長女だが、生後六カ月から志田さんの手で育てられ、すっかり志田さんになつて、終日離れない。

「木琴を買ってあげようと思いまうか。大井沢中学の室岡健雄先生が、

お母さんが亡くなった。戦争がおこった。たよりの弟惣次郎さんが応召し、比島で戦死した。...



茜(あかね) さす空に朝日嶺映ゆる夕べ 共に歌いて由里と歩めり

「弟が医者になつても、ここに帰らなさい」とはいえませんが、珍らしい患者がいるわけじゃない。一生、田舎医者としてうずもれることを思うとかわいそうだ。

日本有数の銀行家で、戦前の三井財閥、いや日本金融資本の大黒柱だったことを思うと、何が運命の皮肉といったものを感じさせる。

結婚の話もすてて...

ここで彼女の、恋について語らなければならぬ。その相手を、

老化を防ぐ3つの鍵... 1. 肝臓機能の強化 2. 血管の補強 3. 整腸・健胃... 人間ドックが生んだ薬 強力ユーボン